

永平寺五代杉の価値

永平寺五代杉とは・・・

今から約760年前の寛元二年(西暦1244年)、道元禅師によって坐禅修行の道場として開かれた永平寺は、境内を三方の山に囲まれた深山幽谷の地にあります。永平寺の歴史とともに成長し、山門の前に崇高に立ち並ぶ樹齢七百余年を重ねる樹高40～50mの老杉を「五代杉」とよんでいます。

この五代杉は、火災などで疲弊した伽藍と規矩を再興した永平寺第五世義雲禅師が植樹され、現在に至っています。

私たちは、この永平寺の歴史を見守ってきた老杉「五代杉」を、門前町としても宝として守っていきます。



祠堂殿の北東側に生育していた樹齢500年弱、樹高43.6m、根元の周長さ11.3mの巨木スギ。



五代杉より古い樹齢1000年の杉。
樹木医の診断で空洞化により危険なため、伐採を行なった。
直径は約5m。

